

AI・DSマスコットキャラクター

敬愛大学 全学プログラム 副専攻「AI・データサイエンス」

敬愛大学

高橋 和子 (AI・データサイエンス教育センター長、国際学部教授)

工藤 龍雄 (IR・広報室長)



教育の敬愛
- 創立100周年 -



目次

- 敬愛大学の紹介
- AI・データサイエンス教育センター
- カリキュラム
- 副専攻プログラム履修状況
- 修了の認定
- 認定に至るまでの経緯
- 申請にあたって留意した点・苦勞した点
- 認定されてよかった点
- 今後の課題

敬愛大学の紹介

敬愛大学

千葉県稲毛区

2026年大学開学60周年(学園創立100周年)

建学の精神は「**敬天愛人**」

(天を**敬**し、人を**愛**す)

学部学科・収容定員

文系3学部・4学科・11コース

全学の収容定員は1600人の**小規模大学**



AI・データサイエンス教育センター

副専攻の目的：AIやデータサイエンスの知識と技能、創造的思考力を身につけ、卒業後の社会におけるAIやデータサイエンスの活用の基礎力を育成する
AIやデータサイエンスの進歩による社会の変化、技術の革新に対応する柔軟な力を養う

本副専攻の運営組織

毎年細かい事業計画を立てて着実に遂行

(1)カリキュラム・科目、(2)履修、(3)学修成果、(4)コンソーシアム、(5)企業との連携、(6)学生募集・広報、(7)就職支援、(8)社会貢献・高大連携、(9)組織人事、(10)内部質保証、(11)管理運営、(12)努力課題

所属や立場の隔てなく建設的な意見交換

教職協働による取組

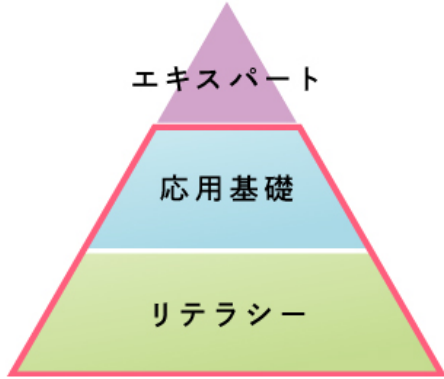
・構成メンバー

- ・教員7名 経済学部3名、国際学部2名、教育学部2名
- ・職員5名 事務局長、IR・広報室長、修学支援室員2名、キャリアセンター長

・参加委員会

- ・自己点検・評価委員会 全学的な観点から点検・評価
- ・大学運営会議 全学的な内部質保証の観点から評価・改善
- ・学部教授会 活動内容の報告

カリキュラム



「数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラム」に準拠した科目により構成されています。現在、我が国で数理・データサイエンス・AI教育のスタンダードとして普及が進められている学修内容を修めることができます。

リテラシーレベル(MDASH認定)

AIやデータサイエンスを活用する「楽しさ」や「学ぶことの意義」を理解します。データの重要性や活用の倫理を学びます。日常生活や仕事で使いこなすことができる基礎的素養を身につけます。

応用基礎レベル(MDASH認定)

データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIやデータサイエンスの知識・スキルを活用し課題解決につなげる基礎的能力を身につけます。所属する学部学科の専門性との関連を学びます。

区分	主な内容	科目
情報	AI、コンピュータ、ネットワーク、セキュリティ、プログラミングなどを学びます。	● AI・DSへのいざない ● 英語で学ぶPython ● データサイエンス総論 ● 情報概論 ● 情報セキュリティ論 ● アルゴリズム論 ● AI概論 ● プログラミング
統計	統計の理論と方法、データ解析の理論と方法などを学びます。	● 統計学Ⅰ・Ⅱ ● 数学Ⅰ・Ⅱ ● 統計学総論Ⅰ・Ⅱ ● マーケティング・リサーチⅠ・Ⅱ ● 観光マーケティング調査 ● ビジネスデータ解析
専門領域	所属する学部学科の専門性に応じて統計やデータ解析の理論と方法などを学びます。	● 経済統計Ⅰ・Ⅱ ● 社会調査法Ⅰ・Ⅱ ● 管理会計論 ● 計量経済学Ⅰ・Ⅱ ● 情報ビジネス論 ● 社会調査実習Ⅰ・Ⅱ ● AI・データサイエンス実践
修了に必要な資格	● 社会調査士 ● Microsoft Office Specialist(Excel) ● ITパスポート ● 統計検定2級以上 ● ビジネス数学検定3級以上 ● G検定 ● データサイエンス数学ストラテジスト中級以上 ● データサイエンティスト検定	

応用基礎レベル

必修科目

はじめてチャレンジする学生にも学びやすいよう「導入」「基礎」「応用」の3段階で学びます。卒業後の活用も意識した内容で構成されています。

	導入	基礎	応用	卒業後の社会
卒業後の活用を意識した段階的な学び	「楽しく」「分かりやすく」学ぶことができる内容で、AI・データサイエンスの世界に親しみます。	AI・データサイエンスを学ぶ上で必要な教養レベルの知識、基礎レベルのスキルを身につけます。	「情報」「統計」「専門領域」の知識・スキルを複合的に使ってAI・データサイエンスの応用力を高めます。	業務知識を身につけ、スキルを磨きます。データを使って組織の意思決定に貢献することを目指します。

副専攻プログラム履修状況

全学の履修者数は212名(12.4%)です。経済学部が最も多く、次いで国際学部です。教育学部は、教員免許取得のため必修科目が多く、履修者数は多くありません。

副専攻「AI・データサイエンス」の履修者数

学年	合計	経済	国際	教育
1	20	12	8	0
2	41	32	8	1
3	72	54	18	0
4	79	62	17	0
合計	212	160	51	1

在学生数に対する履修者の割合

学年	合計	経済	国際	教育
1	4.7%	4.7%	7.3%	0.0%
2	10.6%	14.0%	9.5%	1.4%
3	16.7%	20.7%	18.6%	0.0%
4	17.0%	23.4%	8.5%	
合計	12.4%	15.8%	10.4%	0.5%

修了の認定

「リテラシーレベル」や「応用基礎レベル」の修了要件を満たした人に、本学が発行する修了証とオープンバッジ(電子認証)が授与されます。オープンバッジには、卒業後に取得した資格の履歴も蓄積することができます。



「リテラシーレベル」の修了者



「応用基礎レベル」の修了者

修了条件

「情報概論」

「AI・DSへのいざない」 (経済・国際学部主専攻必修)

「データサイエンス総論」

の計6単位取得

*すべて1年次開講

修了条件*

所定の24単位取得 + 資格を一つ取得

***事前に申請していない場合は、修了要件を満たしても修了証とオープンバッジは発行されない**

認定に至るまでの経緯

- 2018年度秋 副専攻新設の検討開始
 - 経済学部 過去に高校「情報」教員養成科目
 - 国際学部 社会調査士資格取得科目
 - 両学部の科目を利用
 - * 「データサイエンス総論」(1年) 「AI概論」(2年) のみ新設
- 2019年度4月 副専攻スタート(1期生) 30名
- 2021年度 リテラシーレベル認定(2020年度実績)
- 2022年度 応用基礎レベル認定(2021年度実績)
 - 1期生卒業 修了証 10名取得

申請にあたって留意した点・苦勞した点

留意した点

- 前年度実績をもとに申請するため、前もって準備をする
- PDCAをしっかりと行うための点検・評価の体制や手続きを確立する
- ホームページ等で正確かつ迅速な情報公開を行う

苦勞した点

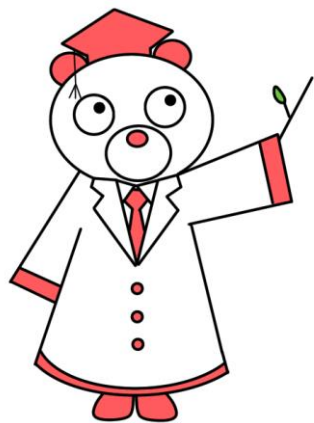
- 要件となる内容が、どの科目のどこに該当するかのチェックが大変
- 申請書の内容に関する疑問は直ちに文部科学省に確認
⇒ 親切に対応していただけた

認定されてよかった点

- 学外に積極的に広報を行うことができた
- オープンキャンパスでこの副専攻を学びたいという高校生の声が増えた
- 認定を受けたことで学内外の認知が高まった
- 新年度の入学者の副専攻の履修意向が高まった

今後の課題

- 実践的な科目の充実
 - 企業や自治体との連携推進
- 高大連携の推進
 - 系列高校との連携推進
 - 県内の高校との連携
- 学生に対するサポート強化と周知
 - インターンシップ先の確保
 - 物理的なコミュニケーションの場
 - 資格試験対策講座の開講
- 定期的な見直し



ご清聴ありがとうございました